



▶▶▶プロフィール

おおた・ゆういち 昭和28年生まれ。大工歴は40年以上で、今まで携わった建物は400棟を超えます。「誰にも負けたくない」と、大工としての技能と技術の研鑽を人一倍積み、一級建築大工技能士や職業訓練指導員の資格を取得。現在、大手住宅メーカーの大工職人として、数多くの物件を手がけるとともに、後進の指導にも熱心に取り組んでいる。趣味はゴルフで、忙しい仕事の合間にも気分転換にゴルフを楽しんでいる。

▶「死ぬまで職人ですかね」と少し照れくさそうに語る太田さん。自分が満足できるまで一切妥協しない職人かたぎは、筋金入り。まさに「建設マスター」。



瞳を輝かせて
Brilliant
Eyes

和室の素晴らしさを伝えたい

平成21年度優秀施工者国土交通大臣顕彰(「建設マスター」)に選ばれる

おおた 太田 右一さん(福田)

優れた技能や技術を持ち、後進の指導・育成に多大な貢献をしている全国の建設技能者を「建設マスター」として選考する「優秀施工者国土交通大臣顕彰」。今回は、平成21年度の「建設マスター」に選ばれた太田右一さんを紹介します。

太田さんは、大工職人として40年以上、住宅建築に従事。その高い技術と、若手職人の育成に尽力した功績が高く評価され今回の受賞につながりました。受賞について太田さんは「何も特別なことではないんですけどね」と笑顔で話します。

「子どものころから物を作るのが大好きで、遊び道具のほとんどは、自分で作っていました」と幼いころから、この道に入る素養があった太田さん。大工見習いの時代は、親方や先輩職人の道具

の準備など、雑用しかさせてもらえませんでした。しかし「一緒に入ったほかの人には絶対に負けたくない」という強い決意の下、親方や先輩職人の仕事を見て学び、現場で出る木材の切れ端を毎日家に持ち帰り練習しました。その努力が報われ、わずか3年で、通常大工の棟梁が行う設計図を見て木材に墨で加工する線を記入する「墨付け」を行い、一軒家を建築する仕事を親方から任せられ、一人前の大工として認められました。「直接親方から褒められることはありませんでしたが、親方の家で食事をしたとき、自分のことを筋がいいと職人同士が話しているのを聞いたときはうれしかったです」と照れくさそうに話します。

その後、23歳の若さで独立。「誰もやっていないことに挑戦したい」とハウスメーカーの施工する住宅の建設を専門に手掛ける仕事に転向。これまで延べ床面積が180坪ほどもある住宅をはじめ、400棟を超える建物を手掛けてきました。

「金額に応じて仕事の質を変えたくないの、つい自分が納得するまで仕事をしてしまいます。商売人にはなれませんが職人かたぎの一面をのぞかせます。毎年建築技術が進歩する中、これだけ技術が進歩しても、床の間などがある昔ながらの和室は残していきたい」と太田さん。「浮き沈みの激しい業界ですが、私はこの仕事は好きですし、辞めたいと思ったことはありません。しかし最近では、大工になりたいという若者がなかなかないので困ります」とこの業界の課題も話します。

現在、新たな取り組みとして、ハウスメーカーで採用した若者を大工職人が教育する「若手技能士育成制度」の第一号目となる若者を指導している太田さん。今後の目標を「今指導している若者を早く一人前の職人に育てることです」と建設マスターの瞳がキラリと輝きます。



まちの話題

Machi
no
Wadai

町内で行われたイベントや行事、まちの話題を写真と一緒に紹介します。
また、三好町ホームページでは「Topics(まちの話題)」と「町政番組『みよしTODAY』動画配信」で
イベントや行事の様子を紹介しています。 <http://www.town.aichi-miyoshi.lg.jp>



実りの秋が楽しみ

田植え体験(天王小学校)

天王小学校の5年生の児童104人が6月2日、^{あらや}新屋地内の水^く田^{のふみひこ}で田植えを行いました。初めに地元農家の久野文彦さんから苗の植え方を教わった後、恐る恐る水田に入り、田植えを実践。児童たちの多くは初めての田植えに四苦八苦。田んぼの泥に足を取られながらも元気いっぱい苗を植えていました。一生懸命に作業をする子どもたちの様子を見て久野さんは「皆さんの食べるお米がどうやってできるのかを考えるきっかけにしてほしいです」とこやかに話していました。児童の一人は「稲が倒れないように気を付けながら植えるのがとても大変でした。でも泥の中はひんやりとしていて、とても気持ちよかったです」と笑顔で話していました。



住み続けたいまちを目指して

三好町安全なまちづくり推進大会・環境美化推進大会



防犯や防災、ゴミ減量などに努めて、住みよいまちづくりを進めようと6月13日、安全なまちづくり推進大会・環境美化推進大会がサンアートで行われました。初めにあいさつに立った久野知英町長が安全で安心して暮らせる住みよいまちづくりを提唱。続いて、交通安全や生活安全など安全なまちづくりの推進や環境美化の推進に尽力された個人・団体の表彰に続き、習字やポスターの作品入賞者の表彰を行いました。参加者は表彰者に盛大な拍手を送るとともに、交通安全や防犯、環境美化に対する意識を再確認していました。

楽しみながら子育てを

乳幼児のための楽しい絵本講座



満面の笑顔がこぼれていました。参加した女性の一人は「自分と同じ子育て中の人と仲良くなることができ、情報交換もできるのでとても助かります」と楽しそうに話していました。



毎年恒例の三吉小学校すもう大会夏場所が6月8日、三吉小学校校庭の土俵で行われました。子どもたちに日本の国技の相撲を体験してもらおうと、夏と秋の2場所開催されているこの大会。クラス代表横綱24人が、全校児童の声援を受け堂々と土俵に入場しました。1年生から5年生までの各学年男女別優勝決定戦と6年生男女4人ずつによるトーナメント戦で熱戦を展開。力のこもった取り組みの連続に、会場には全校児童の大きな声援が飛んでいました。6年生男子で見事優勝した須保翔太君は「対戦した2人ともとても強かったけれど、優勝できてうれしいです」と感想を話していました。

はっけよい、のこった！

三吉小学校すもう大会夏場所



身近で手軽な「歩く」運動であるウォーキングを通して、健康づくりをしてもらおうと6月6日、「三好路を歩こう」が開催されました。三好町ウォーキング協会の主催で毎年行われているこのイベント。今年きたいやまは北井山公園を出発して愛知牧場や日進市総合運動公園を経由し、出発地に戻る16キロのコースを歩きました。町内外から参加した128人は初夏の日差しの中、互いに会話を弾ませながら気持ちの良い汗を流していました。参加者の女性は「毎年健康のために参加していますが、最後まで完歩できた時が一番うれしいです」とウォーキングの魅力について話していました。

健康づくりの第一歩

三好路を歩こう



今よりもステップアップ

ステップアップセミナー啓発講座



ステップアップセミナー啓発講座「行列のできる講座・チラシの作り方」が6月6日、サンアートで行われました。今年から三好町が主催して行われているこのイベント。講師に「NPO 法人男女共同参画おおた」理事長の牟田静香^{むたしずか}さんを招き、「行列のできる講座・チラシの作り方」と題して講演会を開きました。およそ60人の参加者は5、6

人のグループに分かれ、牟田さんからアドバイスを受けながら良いチラシと悪いチラシの見分け方やチラシの作り方、広報戦力などを熱心に話し合いました。参加者の女性の一人は「実績のある牟田さんの説明はとても分かりやすく勉強になりました。今日学んだことを今後自分が開催する講座にぜひ取り入れたいと思います」と話しました。

太陽(ソレイユ)から音楽の贈り物

ママさんブラスバンド演奏会(打越保育園)



過去に楽器演奏の経験がある、子育て中のお母さんたちが再び演奏をしたいという思いから結成したママさんブラスバンド「ソレイユ」。その演奏会が6月11日、打越保育園で開かれました。これは子どもたちに幼いうちから音楽に親しんでもらおうと打越保育園父母の会^{かとうまゆこ}が企画したものです。初めにソレイユのリーダーの加藤繭子^{かとうまゆこ}さんから「今日はみんなの知っている曲を演奏するので、楽しんで聞いてください」とあいさつ。続いて、子どもたちに人気のある「崖の上のポニョ」や「となりのトトロ」の「さんぽ」などの曲を演奏しました。園児たちは一緒に歌ったり、手拍子したりして、楽器の生演奏を楽しんでいました。